

受講者 各位

令和5年度 高・中堅研必修1-1

教科指導法研修会（高・理科）に関する課題について

担当：佐々木 智謙（山梨大学）

1. 研修の目的

改訂された学習指導要領では、生徒に育成すべき資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）が示されました。特に、理科では、探究の過程（課題の把握（発見）、課題の探究（追及）、課題の解決）を通じた学習活動を行い、それぞれの過程において、資質・能力が育成されるよう指導の改善を図る必要性が明示されています（次頁に参考資料有）。

本研修では、上記の探究の過程に基づき、受講者の先生方が2学期に実践された理科授業実践について報告していただきます。中堅教員としての実践的力量を高めること、および自己の教育観の再考などが本研修の目的です。また、優れた理科授業実践等をお互いに共有し、今後の指導に活かして欲しいと思います。そのため、研修日に下記課題についてのレポートをご持参ください。

2. レポートの課題

探究の過程を重視した理科授業実践の報告

3. レポートの内容

① 学習指導案等の作成

報告する理科授業実践の学習指導案（略案でも可）を作成ください（指導案の形式は自由）。各種教材等（配布資料やワークシート、生徒の回答等）があれば、併せてご持参ください。

② 成果と課題の作成

理科授業実践を行った振り返り（どのようなねらいで授業を行い、そのねらいは達成できたか否か等）について、成果と課題として、レポートに簡潔にまとめてください。

③ 授業実践の映像の記録（※ 可能であれば！）

可能であれば、理科授業実践の様子を、ビデオ等で撮影してご持参ください。パソコン・プロジェクター等を用意しますので、記録媒体（DVD やHDD、またはビデオ本体等）に保存してきてください。

※ なお、今年度、理科の授業を持っていない場合は、これまでの実践事例のご報告で構いません。

※ 当日、上記レポートを5部印刷してきてください。お一人20分程度で発表してもらいます（PPT も可）。

4. 研修の方法

各自が持参したレポートを発表し、参加者による討議を中心に進めたいと思います。ご自身の授業実践を振り返り、課題を明確にし、さらにその克服を目指し、他の教師の優れた実践方法などを取り入れることによって、以後の授業改善に活かしてください。

図 1 資質・能力を育むために重視する探究の過程のイメージ (中央教育審議会答申を一部修正)



*1 探究の過程は、必ずしも一方向の流れではない。また、授業では、その過程の一部を扱ってもよい。
*2 「見通し」と「振り返り」は、学習過程全体を通してのみならず、必要に応じて、それぞれの学習過程で行うことも重要である。
*3 全ての学習過程において、今までに身に付けた資質・能力(既習の知識及び技能など)を活用する力が求められる。
*4 意見交換や議論の際には、あらかじめ個人で考えることが重要である。また、他者とのかわりの中で自分の考えをより妥当なものにする力が求められる。
*5 単元内容や題材の関係で観察・実験が扱えない場合も、調査して論理的に検討を行うなど、探究の過程を経ることが重要である。
*6 自然事象には、日常生活に見られる事象も含まれる。
*7 小学校及び中学校においても、基本的には高等学校の例と同様の流れで学習過程を捉えることが必要である。